

2020年4月6日

JICA

社会基盤部

運輸交通グループ 第一チーム

議事録

日時：2020年3月10日（火） 17:00-18:00
件名：道路アセットマネジメントプラットフォーム 国内支援委員会（第1回）
出席者
別紙1のとおり。
場所：往訪・来訪・ 会議 （場所：JICA本部 229会議室）

1. 内容

（1）国内支援委員会 設立趣旨・設置要領（案）の説明（資料1-1、1-2）

【長井委員長】

・来年度以降特に力を入れようとしている活動内容は。

【金縄参事役】

・技プロマニュアル類の整理と体系化、道路アセットマネジメント定着に係る評価手法の検討、長期研修員受け入れプログラムの3点が挙げられる。

【長井委員長】

・プラットフォームの活動については、非常に良い取組だと考えている。今後、土木学会とも連携して積極的な広報をお願いしたい。

【金縄参事役】

・土木学会誌2020年6月号での特集にて活動紹介する予定である。

【大島委員】

・留学生の大学受入れについて、資料に掲載のない大学が参画する場合は手続き等必要か。

【金縄参事役】

・もともと戦略的イノベーション創造プログラム（通称「SIP」）インフラ維持管理・更新・マネジメント技術に参画している大学の先生方に受け入れて頂くことからスタートした。、現在このSIPの活動は土木学会新技術適用推進委員会の国際展開小委員会に引き継がれていることから、土木学会に所属する先生（大学）はすべて受入が可能であると考えている。

【大島委員】

・大学側では留学生受入れ以外に、大学側で開発途上国のニーズに応じた研究を実施する等といった研究者との連携が必要ではないか。

【金縄参事役】

・立上げ時には、SIP関連の研究技術の活用を進めてきたところである。現在はこの体制を土

木学会に継承したことで、土木学会の中で新たに設立された研究助成の採択案件との連携を積極的に図ろうとしている。このような研究助成との連携状況を当委員会に報告したい。

【藤木委員】

- ・道路アセットマネジメントプラットフォームの取組は非常に画期的なテーマを扱っていると考えている。維持管理に関する個別の技術の深化は進んでいるが、組織のマネジメントそのものに関する研究はあまり行われていない。また、行政機関の職員を対象とした道路アセットマネジメントについての研修はまだまだ一般的ではない。良いアピールとなるので、広報に期待したい。

【金縄参事役】

- ・2018年度、2019年度と社会インフラテックに JICA ブースを出して広報をしている。次年度以降もこの広報は継続したい。

【信田委員】

- ・SIP では地方の大学を巻き込んで、新たな技術の地域実装を試みてきたところ。その学びとしては、必ずしも中性子やレーザを使用するような最先端の技術が必要という訳ではない。国内の地域実装に展開が図られている技術は、アジア各国における適用へ親和性が高い。今後は、インフラメンテナンス国民会議なども通じて、国交省、土木学会、地域と JICA が有機的に連携することが重要である。このような活動を知らない人が多いと思うことから土木学会の講堂でセミナーをするなど広報をして頂きたい。また、SIP では電気通信分野の方たちも巻き込んで研究をしていた。このような他分野とつながりながら研究開発を研究のリソースを失わない事が大切と考える。

【金縄参事役】

- ・JICA としても SIP の地域実装の中核を担っていた長崎大学、岐阜大学、琉球大学などの大学の先生からこの地域実装の取組に参画していた地場の企業を紹介いただき、その技術活用や留学生をインターンとして受入していただくといった連携も検討しており、今後、こうした活動を継続して状況を広報していく予定である。

(2) 道路アセットマネジメント評価シートの変更 (資料2、参考資料1)

【長井委員長】

- ・(マニュアル等) ある・ないの評価は分かりやすいが、CP の能力に関する定性的な評価が含まれる項目は難しい質問では。

【岡本氏】

- ・CP へのヒアリングベースで評価している。知識のある・なしについては、例えば土木の知識があるかどうかなどの定義について、備考欄に、大学の土木工学科相当の教育を受けているなど明記した。今後も改善していきたい。

【長井委員長】

- ・日本の地方自治体だと事務職でも点検を実施しているところもあり知識の有無を評価するこ

とが難しい。評価結果と（調査団の）感覚があっているならよい。

【大島委員】

- ・達成度評価の使い道についてはどのように考えているか。国によって予算、組織等異なるなかでアセットマネジメントの目標設定をどう考えているか。

【藤木委員】

- ・道路アセットマネジメントの評価には、組織ビジョン（目標）の把握や方針の整備などの評価が前段にあるが、本評価ではマニュアルが出来ているか、運用しているかなど実務レベルの評価を中心にした。アセットの規模や複雑さは評価シートには反映されていないが、評価する際にその点も斟酌している。

【金縄参事役】

- ・JICA は道路 AM の定着が目標。この手法（評価シート）はそのためにどの部分が足りていないか調べるのに良いと考えている。今後、トンネルなど、対象項目を細分化していきたい。

【大島委員】

- ・この手法は対象国が使うのか。支援側が使うのか。

【金縄参事役】

- ・両方の使い方がある。今年の課題別研修ではこれを用いて自己評価してもらっている。研修前と研修後にどのような評価の違いがあったか。また、帰国後に本邦研修で立案したアクションプラン実施後に評価がどのように変化したか等、これから何がわかるか学識有識者に研究いただくことも考えられるのではないか。

【信田委員】

- ・点検結果をどのように評価するかは、評価の仕組みや評価人材の育成を含め、地方自治体の課題の一つとなっている。この評価では診断から措置のところは薄いと思う。この部分（措置の部分）が出来た人材を開発途上国にて育成したいのであれば、そこを評価項目に入れるべき。

【大島委員】

- ・点検はしたものの診断・措置が出来ないという地方は多い。日本ではそこを大学が支援している。途上国も日本と同じような形で対応していくべき。

【金縄参事役】

- ・評価項目に研究機関との連携、技術開発といった項目の追加を検討する。

【信田委員】

- ・予防保全をどう考えるか。予防保全に基づく施策を実行出来る人材を育成すべき。

【長井研修員】

- ・課題別研修に参加した研修員から補修の仕方について知りたいというニーズが出されている。

【金縄参事役】

- ・課題別研修で頂いた意見を基に項目を検討していきたい。

【長井研修員】

- ・この成果（道路アセットマネジメント成熟度評価）について公表についてはどのような形を考えているか。

【金縄参事役】

- ・土木学会での報告、学会等での公表を考えている。大学の先生方にも JICA からデータを提供し、評価結果から何が分かるか分析いただきたく思っている。

【藤木委員】

- ・今後、アセットやマネジメントの評価方法自体が国際競争の対象になってくる可能性がある。評価について他のドナーと基準作りで調整・協力していく必要がある。

【金縄参事役】

- ・今後、世銀、アジア開発銀行等の他ドナーと、評価方法に関しての意見交換なども検討したい。

【長井委員長】

- ・このような維持管理に関する取組は土木分野で今度、日本が世界で戦える数少ない分野であると考えている。今後に期待したい。

【安達部長】

- ・JICA の道路アセットマネジメントの取組については 3 年前に立ち上げる時に長いスパンで考えていきたいと思い 10 年くらいは続けていくよう期間を設定している。

2. 資料

別紙 1 道路アセットマネジメントプラットフォーム 国内支援委員会（第 1 回）

別紙 2 道路 AM プラットフォーム_第 1 回国内委員会 議事次第

以 上